

研究・調査報告書

報告書番号 18	担当 札幌医科大学医学部薬理学講座
題名 (原題/訳) Effects of moderate alcohol intake on fasting insulin and glucose concentrations and insulin sensitivity in postmenopausal women: a randomized controlled trial. 閉経期後の女性で中等度アルコール摂取が空腹時インスリンならびにグルコース濃度とインスリン感受性に与える効果: 無作為化対照試験	
執筆者 Davies MJ, Baer DJ, Judd JT, Brown ED, Campbell WS, Taylor PR.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) JAMA 287(19):2559-2562 (2002)	
キーワード アルコール摂取、糖尿病、インスリン感受性、臨床試験	
要 旨 背景:疫学的データは、糖尿病でない人が中等度のアルコールを摂取するとインスリン感受性が改善されることを示している。しかし、日常的な中等度アルコール摂取が空腹時インスリンおよびグルコース濃度ならびにインスリン感受性に及ぼす効果を対照試験で検討したものはない。 目的:日常的な低-中等度のアルコール摂取が空腹時インスリンおよびグルコース濃度とインスリン感受性に及ぼす影響について糖尿病ではない閉経期後の女性で検討する。 計画・設定・参加者:1998-1999の期間、メリーランド臨床研究センターで63人の健康な閉経期後の女性を対象に無作為抽出対照試験が行われた。参加者はそれぞれ0、15、30 g/dのアルコールを8週間摂取する群に分けられた。 主要評価項目:絶食時インスリン・トリグリセリド・グルコース濃度、インスリン感受性。 結果:30 g/dアルコール摂取群は0 g/d対照群と比較して、統計的に有意な、インスリン濃度の19.2%低下、トリグリセリド濃度の10.3%低下、インスリン感受性の7.2%上昇を生じた。15 g/dではトリグリセリド濃度のみ有意に低下した。15と30 g/dの群での差はなかったが、摂取量と検査値変化との相関傾向が認められた。絶食時グルコース濃度はいずれの群でも差がなかった。 結論:糖尿病ではない閉経期後の女性では、30 g/dアルコール摂取(一日2杯)はインスリンとトリグリセリド濃度およびインスリン感受性に有益な効果をもたらす。	